



第74期事業報告及び計算書類報告の件

2019年6月21日

代表取締役社長 西田憲司

1. 第74期決算トピックス

【売上高は前期比0.6%の減収】

- ・ 製品・商品は100百万円の増収でありましたが、切削屑が128百万円の減収となり、全体では僅かに減収となりました。
- ・ 黄銅弁については3.5%の増収：
[増収] バルク貯槽用付属機器、LPG容器用弁 [減収] 設備用
- ・ 鉄鋼弁については0.1%の減収：
[増収] バルク貯槽用付属機器、車載用弁、その他(低温弁) [減収] 設備用、船舶用弁
- ・ 切削屑は17.2%の減収。

【営業損失45百万円の計上】

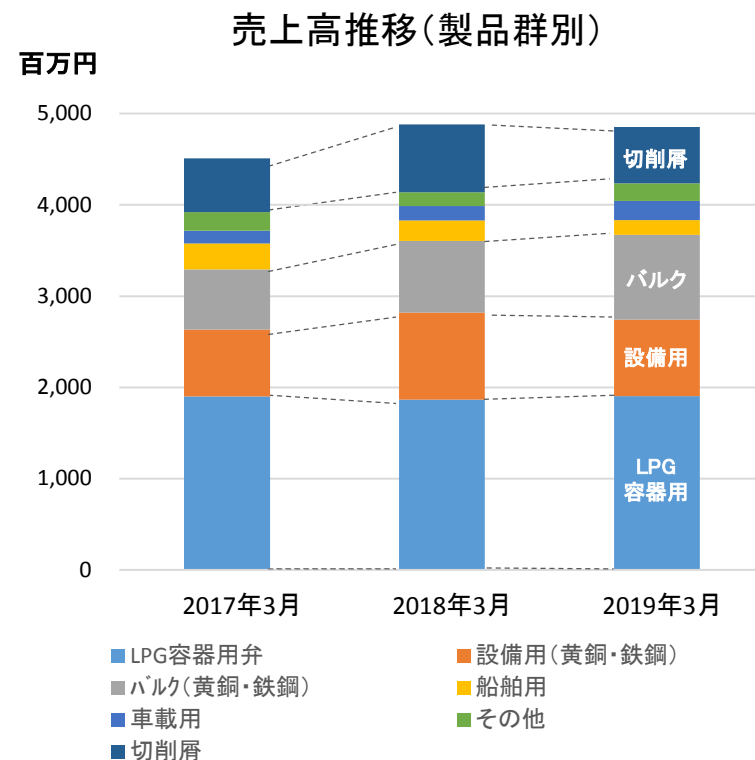
- ・ 黄銅材の高値推移、その他原材料・諸掛の上昇、人件費の増加等のコストアップ要因に対し、原価低減努力(平準化生産、稼働率の維持、部品の内製化、不採算製品の海外OEM化)を継続しつつ製品値上げにより収益確保を図りましたが、競争が激しく、値上げ交渉が長期化した為、期中には期待した値上げ効果が完全には発揮されませんでした。
- ・ 次期(第75期)は、バルク貯槽の20年検査需要が更に拡大するとともに船舶用、低温弁が売上高を下支えする見込みです。損益面では値上げ効果に加え、原価低減努力の継続、人件費を含むコスト構造の見直しを進めることで黒字転換を果す計画です。

【記念配当】

- ・ 本総会において、1株につき1円の普通配当に当社設立70周年の記念配当1円を加え、合計2円とする議案(「剰余金の処分の件」)を提案させていただきます。

2. 売上高

単位：百万円		2017年 3月	2018年 3月	2019年 3月	19-18年 増減
黄銅弁	LPG容器用弁	1,902	1,867	1,905	38
	設備用	330	363	348	▲14
	バルク付属機器	448	550	628	78
	その他	1	5	1	▲3
	小計	2,681	2,786	2,885	98
鉄鋼弁	設備用	401	591	491	▲100
	車載用	141	159	212	53
	船舶用	282	223	161	▲62
	バルク付属機器	213	234	300	66
	その他	46	36	77	41
	小計	1,086	1,245	1,243	▲1
	その他	156	112	115	2
	切削屑	590	743	615	▲128
	合計	4,514	4,888	4,860	▲28



- ・バルクは20年検査需要により拡大基調継続、LPG容器用弁は全先定期的訪問励行により増加、タンクローリー案件好調で車載用が増加、低温弁好調で鉄鋼弁その他が増加しましたが、設備用、船舶用は案件低調で減少しました。
- ・切削屑は新ライン構築の準備として前期に作り込んだLPG容器用弁を消化するため減産した影響で減少しました。

3. 収益状況

次期(第75期)は、値上げ効果に加え、原価低減努力の継続、人件費を含むコスト構造の見直しを進めることで黒字転換を果す計画です。

単位: 百万円	2017年 3月	2018年 3月	2019年 3月	19-18年 増減
売上高	4,514	4,888	4,860	▲28
売上原価	3,669	3,970	4,053	83
売上総利益	845	918	807	▲111
販管費	728	861	852	▲9
営業利益	117	57	▲45	▲102
営業外損益	▲6	44	▲11	▲55
経常利益	111	101	▲56	▲157
特別損益	112	31	1	▲30
税引前利益	223	132	▲55	▲187
法人税等	24	28	31	3
当期純利益	199	104	▲86	▲190

【売上総利益率】

2017年3月	18.7%
2018年3月	18.8%
2019年3月	16.6%

【営業利益率】

2017年3月	2.6%
2018年3月	1.2%
2019年3月	赤字

【2019年3月期】

- ・ 売上高は全体では横ばいですが、製品・商品が100百万円増、切削屑が128百万円減で内容が改善(付加価値が付く売上高の割合が増えている)しています。
- ・ 売上原価の増加83百万円のうち人件費が79百万円増加しました。その他、材料の高止まり、諸掛の上昇により、売上総利益が前期比111百万円減少したことで、販管費の削減に努めましたが、営業損失の計上となりました。

4. 財務状況

単位：百万円	2017年 3月	2018年 3月	2019年 3月	19-18年 増減
流動資産	3,129	3,943	4,049	106
うち現預金	547	589	320	▲269
うち受手・売掛金	1,066	1,088	994	▲94
うち商品・製品	1,116	1,688	2,017	① 329
うち原材料	316	458	632	174
固定資産	3,974	4,792	② 4,768	▲24
資産合計	7,103	8,735	8,817	82
流動負債	1,861	2,559	2,573	14
うち支手・買掛金	599	731	719	12
うち借入金	854	1,101	1,414	③ 313
うち未払金	213	324	171	▲153
固定負債	1,314	2,088	2,372	284
うち借入金	168	978	1,249	③ 271
純資産	3,928	4,088	3,872	▲216
うち利益剰余金	381	422	288	▲134
負債純資産合計	7,103	8,735	8,817	82

※ 当面、総資産の増加、借入金の増加を抑制的に運営していきます。

【商品・製品増加要因 ①】

バルク付属機器	388百万円
設備用・輸送用・低温	249
LPG容器用弁	▲308
計	329百万円

- ・バルク付属機器は20年検査需要対応で増産を継続しました。
- ・設備用・輸送用・低温は次期に向かい売上回復を予想するため増産しました。
- ・LPG容器用弁は新工場切り替え時の安全在庫を消化するため減産しました。

【固定資産内訳 ②】

LPG新工場建物	167百万円
LPG新工場機械設備	714
計	881百万円

【借入金増加内訳 ③】

製品在庫増	329百万円
原材料在庫増	174
運転資金その他	208
配当金	46
税金	45
ESOP信託	51
現預金の減少	▲269
計	584百万円

5. 75期(2020年3月)見通し

【決算短信業績予想】

単位：百万円	2019年3月 実績	2020年3月 業績予想
売上高	4,860	5,020
営業利益	▲45	150
経常利益	▲56	140
当期純利益	▲86	100

【売上高予想内訳】

単位：百万円	2019年3月 実績	2020年3月 予想	増減%
LPG容器用弁	1,905	1,930	1.3
設備用	839	830	▲1.1
バルク付属機器	928	1,080	16.4
その他	573	600	4.7
切削屑	615	580	▲5.7
合計	4,860	5,020	3.3

【売上高】

- ・ バルク付属機器は20年検査需要が一層本格化し売上高を底支えすると予想しております。
- ・ 「その他」に含まれる船舶は復調、車載は横ばい低温弁はさらに拡大すると予想しております。
- ・ LPG容器用弁の生産を平年度ベースに戻すため切削屑はさらに減少する見通しです。

【収益予想】

- ・ 74期から取り組んでいる値上げ効果、下記の収益改善策の継続実施、人件費を含むコスト構造の見直しにより、黒字転換を果す予想です。

＜継続実施する収益改善策＞

- イ) 海外OEM生産による不採算製品の撲滅
- ロ) 外注部品加工の内製化
- ハ) 生産管理体制の強化、設備見直しによる生産効率化
- ニ) 設計変更を伴うVA提案の積極化

6. 事業展開

	コア事業	拡大事業	新規事業	提携事業
分野	LPG	LNG・水素・液体窒素	食品加工、汎用	Cavagna社
第7 4期 取り 組み	・容器用弁新工場完成 安定稼働達成 ・バルク貯槽20年検査需要 に対応した製品作り込み (実施中) ・エンジニアリングサービス(ES) 部設置・有償メンテナンス 事業立上げ完了 (26件3.7百万円の収入) ・製品値上(実施中)	・低温弁新規開拓 (22社、3.5百万円受注) ・LNG弁73期比売上倍増 (36百万円→73百万円) ・液体水素弁の実機テスト (実施準備)	・食品加工用サニタリー弁売上 (実績8台) ・散水ノズル売上 (実績181個) ・汎用弁のOEM調達売上 (実績618個) ・ワイン濾過器売上 (実績1台)	・C社産業ガス用製品の 輸入販売を検討(不成約) ・C社LPガス利用機器 (パティオヒータ)の輸入 販売を検討(継続中)
今後 の取 り組 み	・製品値上げの完全実施 ・バルク貯槽付属機器の 増産、販売強化継続 ・設備用弁の一部OEM化 による不採算解消 ・樹脂成形部品の内製化	・低温弁を切り口とした新規 開拓の継続 － 中小造船所 － ケミカル用ローリー ・都市ガス用製品の開発 ・液体水素弁の採用獲得	・食品加工用サニタリー弁の 品揃え拡大 ・汎用弁の品揃え拡大 ・ミストノズルの開発 ・カセットボンベ残ガス回収装置 の開発	・友好関係を維持しつつ、 相互に協働機会を探る ことを先方と合意済

7. コア事業（LPG）

【新ラインの完成・稼働】

長年の懸案でありましたLPG容器用弁製造ラインの全面更新が完了しました。生産性を飛躍的に向上させていきます。



【樹脂成形部品の内製化】

原価低減策として「外注部品の内製化」に取り組んでおります。成形機と技術者を整え、樹脂成形の内製化を可能にしました。



LPG事業は成熟市場に属しておりますが、今後も生産性向上、原価低減、新製品開発に注力し、当社のコア事業として成長を図っていきます。

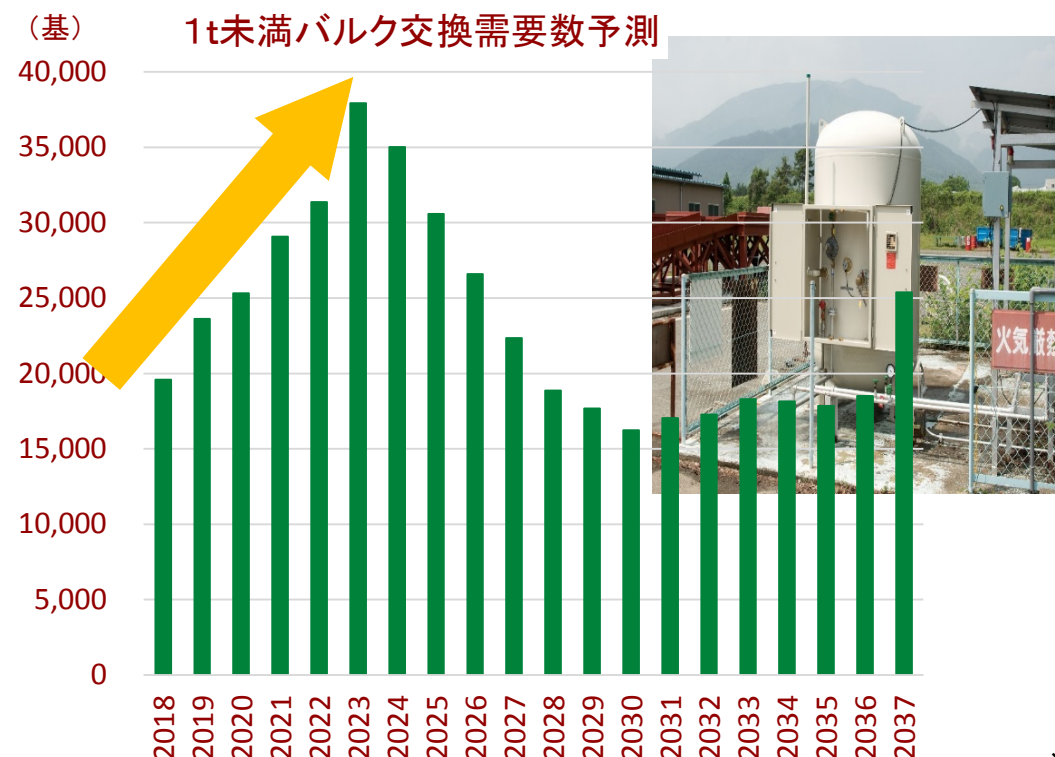
【FRP容器用弁を開発】

中国工業株式会社様の新開発LPG用FRP容器に当社の新開発容器用弁を採用いただきました。

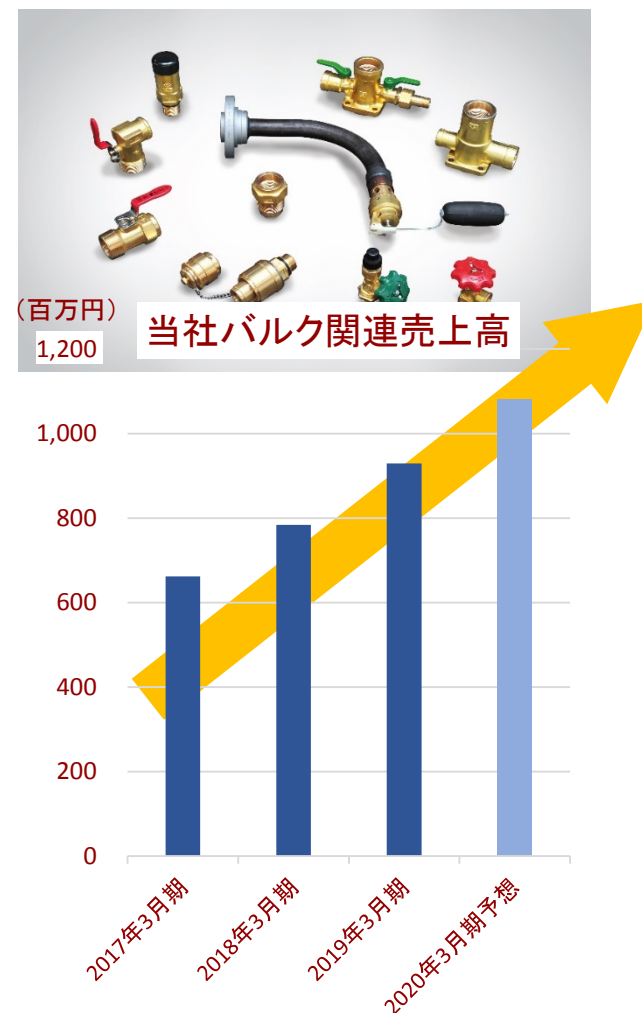


8. バルク貯槽用付属機器見通し

- 1997年から設置が始まったLPGバルク貯槽は20年目の貯槽の製造日までに検査をしなければ使用禁止となります。1t未満のバルク貯槽は新品と交換するほうが(その後5年毎の検査を受けなくて済む為)経済的であるので交換需要が発生しております。



※一般社団法人日本溶接容器工業会の1998年以降の生産統計をもとに当社推計(暦年)



※2023年の交換需要ピークに向かって売上高が順調に伸びていきます。

9. 拡大事業（低温：LNG・水素・液体窒素他）

【低温併事業】

LNGや液体窒素の貯蔵・運搬に着目した品揃えを定番化し、水素を含めた産業ガスの製造・貯蔵に関わる用途開発を進めております。また、化学プラント、造船会社が集積する瀬戸内地区で新規開拓活動を集中的に行っております。



10. 新規事業（食品加工・汎用）

【新規事業】

食品加工分野での製品開発を進めることで、新分野（水、油、蒸気等）の技術を獲得し、新事業開発を推進しております。また、既存のエネルギーガス分野での新事業開発（カセットボンベガス回収事業へ展開）も行っております。

【食品加工分野製品】

サニタリーバルブ



ワイン濾過機



【水周り分野製品】

散水ノズル



ミストノズル



【エネルギーガス分野製品】

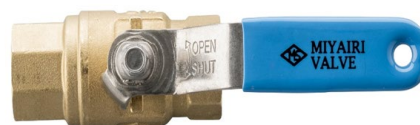
カセットボンベガス回収治具



カセットボンベガス回収事業へ展開

【汎用製品】

汎用弁



11. 新規事業（新事業分野）

- 社内活性化のために新規事業の社内公募を行った結果、現在5つの分野で事業立上げにトライしています。
- ECサイトでは山梨県物産の販売とサービス事業の予約を行います。
第1弾としてアサヤ食品様のワインビネガー等のOEM製品を販売します。

【新規事業の販売・予約プラットフォーム】



販売

販売

ECサイト事業（物販・サービス）



きらっと南プス
kiratto nanpusu

予約

予約

販売

高機能植物栽培事業



工場内でシセベリー、食用ホオズキの試験栽培を開始しました。

実現

将来

ハウスクリーニング事業



ハウスクリーニング士認定を取得した社員により事業を立上げます。

ドローンによる農業支援事業



ドローン操縦技能認定を取得した社員により農薬散布、害獣駆除、測量等の事業を立上げます。

品目：ワインビネガー、ピクルス
製造：アサヤ食品株式会社様
販売：当社
ワイン濾過機を納入したワイナリーのご紹介でご縁を頂きました。
当社独自デザインのパッケージです。

12. 提携事業（Cavagna社）

- 2016年6月の合意書締結以来、様々な製品分野での提携可能性を探ってきておりますが、日本の高圧ガス供給機器についての品質要求水準が世界でも稀に見る高い水準にあるため、国内で流通する製品仕様がグローバルスタンダードとは乖離しており、双方にメリットのある提携事業が見出せておりません。
- しかしながら、お互いの事業環境や事業内容は常に変化しているため、今後も現在の友好関係を維持し協働機会を探ることで先方経営者と合意しております。

事業分野比較	当社		カバーニャ		現状
	日本	海外	日本	海外	検討結果
展開地域 (△は限定的)					
LPG容器用	○	△	X	○	X
LPG設備用	○	△	X	○	X
プラント用	○	△	X	○	
医療・産業ガス容器用	X	X	X	○	X
調整器	X	X	X	○	X
低温設備用	○	X	X	○	X
容器充填設備	X	X	X	○	
LPG使用機器	X	X	X	○	△

※  マーク分野について個別案件を検討済です。

LPG使用機器のうち、パティオヒータにつき輸入販売を検討中です。



13. 事業戦略イメージ

【事業戦略】

食品加工分野をパイロットケースとして流体、圧力帯、温度帯、製品種類の拡大を図ります。

流体		圧力帯		温度帯		製品種類	
現在	将来	現在	将来	現在	将来	現在	将来
・ ガス	・ ガス ・ 水、油 ・ 蒸気	・ 高圧	・ 高圧 ・ 低圧	・ 常温 ・ 低温	・ 常温 ・ 低温 ・ 高温	・ バルブ	・ バルブ ・ ノズル ・ カップリング

